

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590700047		
法人名	エポックワン有限会社		
事業所名	グループホームこもれび下松		
所在地	山口県下松市古川町1丁目5-5		
自己評価作成日	平成23年2月27日	評価結果市町受理日	平成23年8月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭のように自由に安心して過ごして頂けるよう努めております。 ・入浴は毎日、食事は苑内で作ったものを提供しております。 ・できるだけ、利用者の有する力が発揮できるよう配慮しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事は主に調理を担当する職員を三名確保され、三食とも事業所で調理されています。栄養バランスに配慮され、季節感のある献立を心がけられ、職員も一緒に同じものを食べ、会話をしながら食事が楽しめるように支援されています。月1回のリハビリクッキングは三食の食事づくりを利用者と一緒にされ、準備、調理、盛り付け、片付けの出来る事をしたり、おやつづくりも楽しんでいます。ヒヤリはつとや事故報告書を整備して記録し、事故防止委員会で再発防止策を検討され介護計画に反映し、一人ひとりの事故防止に取り組まれています。法人内研修で、救急救命法を学び、吸引、誤嚥、転倒初期対応の訓練を実施され、日々のケアに活かすように取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念があってもそれを踏まえた実践にはなっていない。	法人の介護理念を事業所の理念とし、事業所内に掲示している。これから職員と話し合い、事業所の理念をつくるよう検討をしている。	・地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念の作成	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに参加したり、中学生の福祉体験学習の受け入れをしている。たまに、商店での買い物や食事をしている。	自治会に加入し、地域や神社の祭りに参加している。散歩に出かけた公園で小学生と交流したり、体験学習の中学生が訪れ1日利用者と一緒に過ごしたりしている。近くの喫茶店や商店での買い物で地域の人と日常的に交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(まず、知って頂く為に)運営推進会議に参加して頂こうと自治会長や班長に出席を呼びかけている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の内容は今回、職員が知ることとなったが、意義までは理解していない。	職員を4チームに分け自己評価を行い、管理者が意見をとりまとめている。アウトカム項目はミーティングで話し合い「職員が生き活きと働いているか」等が課題となり、今後具体的な完全に向けて検討中である。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際を報告し、話し合った事を活かそうと取り組みを始めたところである。	市職員2名・地域包括支援センター1名・地域代表1名、家族、利用者等の参加で3回開催している。利用者の状況、行事、各委員会の活動を報告し、スライドを活用し勉強会をしてはどうかなどの意見がありサービスに反映している。	・運営推進会議のメンバーの拡大 ・開催回数の検討	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない事があれば、相談するようにしている。ホームの様子を広報誌によって伝えている。	市担当者と、電話や出向くなどして連絡をとっている。事業所たよりやパンフレットを提出し、事業所の様子を伝えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を正しく理解しているかは、定かではないが、拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について理解し、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については家族に説明し理解を得ながら、鍵をかけない支援に取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は、まだ設けていない。虐待が見過ごされぬよう注意をし、防止に努めているが、虐待は身体的なものだけではなく事を全職員が理解し、学んでいく機会を持とうと思っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は設けていない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に解約等の内容も含め、説明し、同意を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付体制を設けており、苦情ならびに要望があれば、職員に伝え反映させている。	面会時、家族会、介護計画の更新時に家族からの意見や要望を聞き運営に反映している。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを行っており、職員の意見を聞く場を設けている。出来ることのみ、反映している。	申し送り時や月1回のミーティングの時に、職員からの意見を聞き運営に反映している。職員用の意見箱を設置し、意見や提案を聞く機会を設けている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績、勤務状況をふまえ、給与水準に生かそうとの準備段階である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ひとづくり財団主催の研修には積極的に研修できるようにしている。他研修にも事業所にあうものであれば、参加してもらい、個人でも参加できるよう、掲示することもある。	段階に応じた外部研修に業務の一環として参加の機会を提供し、受講後は復命報告し資料が閲覧できるようにしている。法人内研修、他研修の情報提供をしている。ミーティングを利用して初期対応の訓練を実施している。内部研修は実施していない。	・研修の機会の工夫と内容の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホームとの交換実習、同事業所内での勉強会など計画している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心を確保できるよう進めているが、職員全員が統一してできているとはいえない。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族からホームへの要望は必ず聞くようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族に対しては、特に要望等から導き出したサービスを提供するようにしている。本人にとっても可能な範囲で必要なサービスを取り入れるようにしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築こうとしているが、場面々では出来ていないことも多い。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	支えあえるような関係作りが出来ている家族 もあるが、それぞれの家庭の事情もあり、関 係作りが難しい家庭もある。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所 との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来ている利用者もいるが、開設時点で、既 に途切れている方も多くいる。	知人や友人が事業所を訪問したり、公園で知 りあった小学生の来所、外泊や自宅周辺のド ライブ等の支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	関係を把握し、利用者同士が関わりあいな がら支える支援にも努めているが、十分では ない。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した時点で積極的な関わりは持た ないが、利用者を支えてきた方々をいつでも 受け入れる気持ちではいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	把握に努めているが、全利用者に対して出 来ているとはいえない。	日々の暮らしの中で聞き取った言葉をケース 記録に書きとめ、一人ひとりの思いや意向の 把握に努めている。困難な場合は、利用者の 表情を汲み取り、家族から聞き取り、職員で話し 合って本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	情報を得ようと努めているが、利用者によっ ては、情報収集が困難な場合も多い。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めているが、十分に把握できていない。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師の指示や家族の意向にも沿うようサービスの中に組み込み、職員とのやりとりの中で進めていけるようスタートしたばかりである。	利用者と家族から聞取った意向や、医師の意見を参考にして、担当職員を中心に検討し介護計画を作成している。3ヶ月に1回モニタリング、6ヶ月で見直し、現状に変化があった時はその都度見直し、現状に合った介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者にとって特に大切な情報は、共有できるようにしているが、十分伝わっていないこともある。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者によっては、新たなサービスを取り入れている者もいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人を支えてきた地域資源又は、今必要な地域資源が、十分把握できているとはいえない。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回主治医の往診がある。寝たきりや病院受診が困難とみられる場合においては、出来る限り往診をお願いする。	協力医療機関が主治医となっており、月1回の往診や専門医への受診など適切な医療が受けれるように支援している。受診は家族と協力をしながら支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報告相談をし、適切な受診ができるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室のある病院には、入院時の経過を伝え状態が変化した時や退院前など情報が得られるよう関係作りをしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の診断により終末期を近く迎えると決定した時、終末に向けてどう対応していくかを、医師、家族、管理者、看護師で話し合っている。	利用者が重度化した場合は、医師・家族・関係者で話し合い方針を共有して支援をしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事後防止委員会を作り運営している。取り組んでいるが防止策については、十分ではなく、特に応急手当や初期対応の訓練が十分ではない。	ヒヤリはっと、事故報告書に記録し、事故防止委員会で検討し、介護計画に反映して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。法人内研修で救急法の訓練を実施している。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を2回実施しているが、全職員が避難できる方法を身につけてはいない。地域との協力体制も築けていない。	避難訓練を年2回実施し、夜間想定の実験も実施している。地域との協力体制はまだ築けていない。	・地域への働きかけ
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねない対応は出来ていない時がある。	利用者を人生の先輩として尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に気をつけて、一人ひとりの思いにそって接している。日々のケアの中での気づきはミーリングで話し合い改善に努めている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけるようにしている時もあるが、思いや希望を聞かず、一連の流れの中で、行動を進めている時もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の暮らしを心掛けているが、希望をくみ取り支援できているとはいえない時がある。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが十分できていない時がある。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けに時々参加する利用者はいいる。食事は、その時の状況にもよるが一緒にとるようにしている。	三食とも事業所で食事をつくり、職員も一緒に同じものを食べている。月1回三食を利用者と一緒につくるリハビリクッキングを実施し、準備、調理、片づけ等出来る事を支援し、食事が楽しめるように取り組んでいる。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	殆どの利用者が、必要量の食事量は確保できている。水分量も十分確保できるよう努めているが、本人の強い意志もあり摂取量が少ない時もある。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後実施している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべくトイレでの排泄が長く続くよう支援している。	排泄チェック表を利用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼っている事が多い。飲食物の工夫や運動も取り入れているが、便秘がちである。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日実施し、希望があれば毎日入れる。時間は午後に行っているが、以前の習慣が朝であれば希望を取り入れる体制作りをするつもりである。	午後から入浴を行い、希望があれば毎日の入浴も可能である。入浴したくない場合は、家族の協力を得たり、タイミング見て再度声をかけ入浴できるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自力歩行できたり、自分の居室がわかっている者にとっては自由に休息している。出来ない者にとっては、職員の配慮により休息ができるようにしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用等の理解は出来ていないが、用法については理解している。服薬により変化が表れやすい者にとっては記録し、確認に努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や役割など把握できている利用者にとっては、活かした支援を取り入れている。	花を生ける、歌を歌う、季節の飾りづくり、雑巾縫い、うどんづくり、散歩、洗濯干しや洗濯物たたみ、お米とぎ、エステ利用等、一人ひとりの楽しみ、気分転換が出来るように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があり、ホームでの対応がすぐには難しい状態にある時は、家族の協力を得るようにしているが、実現も難しい場合が多い。	散歩に出かけたり、近くの喫茶店で好きなパンを食べたり、買い物や外食、ドライブ等戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持していない。(お金を持っていないと不安で自己管理できる者については持っている人もいる)使う事は出来る。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手が了解されており、本人の希望もあれば、電話もできる。手紙は、本人が書きたがらない場合が多い。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるようにしている。	共用空間は明るく、台所からの調理の音や匂いが五感を刺激し、壁には利用者が作った作品や、暮らしの中で撮った笑顔の写真が飾っており、畳コーナーやソファが設置しており、思い思いの場所でくつろげるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りだけのスペースは設けていないが、気の合う者同士で話ができる空間はある。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染の物を持ってきて頂けるよう家族に伝えであるが、必要な物は新しい物を持ってこられる。	机や椅子、洋服かけ、写真など使い慣れたものや好みの物が持ち込まれ、安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫しているところもあるが、まだできる事も多々ある。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームこもれば下松

作成日： 平成 23年 8月 1日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	理念はあるが、具体性にかけるため、実践に結びつけることが難しく、統一した理解ができていない	理念の意図していることを理解し、実践する	今ある理念をもとに、内容を理解した具体的な理念を作り、実践していく	6ヶ月
2	5	運営推進会議が、2ヶ月に1度行われておらず、地域の方の参加が少ない	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、地域の方にも参加していただく	年間計画をたて、確実に開催できるようにする。地域の方にも関心をもってもらえるよう、関わりを多くする	1年
3	14	決まった外部研修に、1部のスタッフのみ参加している	すべてのスタッフに研修の機会が持てるようにする	内部研修の機会を増やし、すべてのスタッフが1つでも多く参加できるようにする	6ヶ月
4	36	避難訓練を年2回実施しているが、現段階では身についておらず、地域との連携体制も築けていない	地震、水害等の避難訓練の知識を得る。避難時地域と連携して非難できるようにする。	災害時地域と連携して非難できるような連絡体制をつくり、訓練に結びつける	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。